島守中

「思考力・判断力・表現力を高める指導法の工夫」

～課題設定の工夫と振り返りを通して～

（２年計画の１年次）

校長　　高　橋　英　臣

１　研究主題について

昨年度は、主題を「主体的に学び、考え、表現できる生徒の育成～ねらいに迫るためのICTとツールの効果的な活用～」とし、研究に取り組んだ。

各教科、領域におけるICTとツール等を併せて活用したことで、授業を通して得た情報や学びが視覚的に整理され、生徒たちは意欲をもって表現活動を行うことができ、結果として、本時のねらいにアプローチしやすくなった。また、振り返りをChromebook上に記録しておくことで、生徒の変容が一目でわかるようになり、一人一人の評価に生かすことができた。

しかしながら、昨年度から機会をとらえて、生徒たちの主体性を育む場面や機会をしかけてきたが、「自分の言葉や様々な方法で伝える力」の育成にはまだ課題がある。課題解決に向かう生徒たちの視点が狭く、先を見通し、実態に合わせた見方・考え方をすることができないといったことが考えられる。そのため、生徒の主体性が生かされ、様々な見方・考え方が働くような授業のしかけにより力を入れて研究する必要がある。

以上のことから、主題を「思考力・判断力・表現力を高める指導法の工夫」とし、生徒が自分の考えを、自分の言葉や様々な方法で他者に伝える力の育成に取り組んでいく。

２　研究のねらい

学校生活の中で「主体的に『学び・考え・伝える』ための取組」と「最後までやり抜くための取組」を工夫することで、本校の学校目標である「課題解決のために、考え・伝え・やりぬく生徒」を育むことを目指す。

３　研究仮説

今年度の研究テーマの副題を「課題設定の工夫と振り返りを通して」とし、授業の効果的な導入と、自己の変容を実感できるような振り返りができるような授業づくりに取り組む。これによって、授業の始めに生徒の課題に対する切実感をもたせ、授業の終末では次の課題解決に取り組む目的意識や意欲につながっていくものと考える。

４　研究内容

(1)　生徒の主体性を土台として、より思考力・判断力・表現力が育まれるような課題の設定と授業の振り返りを行う。

ア　課題の設定場面では、生徒に課題解決に対する切実感をもたせるように工夫する。

イ　振り返りの場面では、授業を通しての自己の変容に気づかせるように工夫する。

(2)　思考を整理し、考えを他者に伝えることができるようにさまざまなツールを活用しながら、授業を展開する。

ア　ねらいに迫るために、各ツールの特性を生かし活用する。

イ　視覚化を意識し、自分と他者の考えを比較できるようにする。

５　研究の経過

(1)研究仮説に基づく授業研究

月	日	授業研究の取組内容
6	30	第１回授業研究（全校特活）　授業者：教頭　須藤　修生 「夢の形」～I have many dreams,Championship.～
9	1	第２回授業研究　要請訪問（全校道徳）　授業者：教諭　嶋守　公子 「いろいろな考え方があることを知る」内容項目【B－（９）相互理解、寛容】 指導助言：八戸市教育委員会　教育指導課　青木　拓哉先生
11	24	第３回授業研究（全校社会）　授業者：教諭　岩織　安香 「領土はどのようにして決められているのだろう？北方領土問題から考える」
1	31	第４回授業研究（２年保健体育）　授業者：教諭　福士　憲司 「速攻を成功させるためには、どのような動きと役割が必要だろうか？」 （バスケットボール）

(2)一般研修

月	日	内　容　等
4	3	第１回校内研 ・生徒情報　・校内研についての共通理解　・今年度の研修について
4	26	第２回校内研 ・校内研テーマ決定　・今後の研修計画について ・指導案の様式について　・今年度の「スマ中ファーム」の運営について
6	7	第３回校内研 「課題設定の工夫と振り返り」　講師：八戸市教育委員会教育指導課　馬渡　正仁先生
8	7	第４回校内研 ・１学期の振り返りと授業研究振り返り（センター訪問を終えて） ・ＮＲＴの分析と考察
8	21	第５回校内研 ・HUMAN、自尊感情尺度シート分析と考察　・ICT やツールの活用について
9	21	第６回校内研 「指導と評価の一体化」　講師：八戸市教育委員会教育指導課　馬渡　正仁先生
12	6	第７回校内研 「自分を知る・気持ちについて考える」 講師：スクールカウンセラー　東野　まり子先生
1	17	第８回校内研 ・自尊感情尺度シートの分析と考察　・今年度の研究授業のまとめ
1	31	第９回校内研 ・今年度の研究授業の振り返り　・BEING の分析と考察　・実践報告書について ・成果と来年度への改善点

６　研究の成果

(1)　Chromebook の活用により、視覚的なアプローチから授業を進めたことで、より物事のイメージをもち、学習を深めていくことができた。

(2)　各教科で振り返りへの取り組みを工夫し、ノート等の紙媒体か Chromebook 上に入力して残すようにした。その結果、授業中の発言を苦手とする生徒からも、考えていることや疑問に思うことをくみ取ることができた。また、それぞれの記録を全体に紹介したり、共有したりすることで生徒の自信につながった。

７　研究の課題

(1)　課題解決に対して、必要感や切実感をもつことができるような導入の工夫にまだ課題がある。生徒の意欲を引き出すような発問と効果的なツールを研究する必要がある。

(2)　意見交流の場面を設定するものの、発表だけで交流までできず終わってしまう場合がある。他者の意見を受容したり、時には異なる意見を述べたりという活動を取り入れ、表現力・コミュニケーション力をより高めるための工夫が必要である。

（記入者　岩織　安香）